

「持続可能な復興広報を考える検討会議」

～風評被害の払拭と風化対策を図るための情報発信の手法を考える～（第4回）

議事要旨

- 1 日時：令和4年11月28日（月） 17:30～19:00
- 2 場所：中央合同庁舎4号館4階第4特別会議室
- 3 出席者：秋葉復興大臣、
五十嵐構成員、伊沢構成員、岡田構成員、河井構成員、
殿村構成員、富永構成員、森下構成員、ほか関係府省庁

議事の概要：

（1）構成員からのプレゼンテーション

2名の構成員より、「未来志向による情報発信の在り方」というテーマのもと、

- ・各情報発信が、人々の「知る、関わる、動く」という行動のうち、どの行動に貢献しているのか、という視点から考えることが重要であること
- ・検索データなども活用しながら関係者間で認識の共有を図った上で、施策全体の方針を定め、情報発信を含めた具体的な対策を講じていくこと、さらに各情報発信がお互いに良い影響を及ぼすような、付加価値の高い施策を目指すことが重要であること
- ・復興広報においても、インフルエンサーと共同でコンテンツを作ることが有用である一方で、当事者でないことへの批判など、インフルエンサーを悩ませる復興広報特有の課題もあること
- ・情報発信の「グランドデザイン」の中で、インフルエンサーに担ってもらうのはどのフェイズであるかを明確にし、さらに、見ている側にも、どのフェイズに関わる発信なのかが伝わるよう工夫する必

要があること

などについての講演をいただいた。

(2) 意見交換について

上記プレゼンテーションを踏まえ、各構成員より、

- ・ 風化防止対策を行うにあたっては、原子力発電所の事故という東日本大震災の特異性も踏まえつつ、「なぜ風化対策を行うのか」という根本的な部分に関する考え方を、関係者間で共有しておく必要があること
- ・ 被災者や当事者の中にも様々なセグメントがあり、「忘れてほしい」と思っている方々もいる中で、誰にとって何を残すのか、よく考えるべきであること

等のコメントをいただいた。